

本町の獣害対策に適した手法も検討してまいります。

◆林業施策

林業施策につきましては、「森林環境譲与税」および「みえ森と緑の県民税」等を活用し、森林意向調査を終えた地区から、調査結果を踏まえ、森林境界の明確化や経営管理権の設定を行う他、昨年に引き続き、公共施設の木材利用や木の良さの普及啓発、森林整備等を行い、森林の持つ公益的機能を保全し、山地災害の抑止に努めてまいります。

◆水産振興

水産振興につきましては、平成29年度に策定した「浜の活力再生プラン」に基づき、就労体験を紀南漁協等関係機関と計画しており、漁業の後継者問題を解消する取り組みを引き続き行っております。

また、漁場の環境整備として藻場造成やつき磯等漁場整備を引き続き実施していただくよう、国・県に要望してまいります。

◆商工業振興

商工業の振興につきましては、

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、経済状況が落ち込んでいることから、「紀の宝商品券」、「紀の宝プレミアム商品券」の2つの商品券事業を行い地域経済の回復に努めてまいります。

昨年末からの新型コロナウイルス感染者数が急速に増加したことに伴い、町内でも多大な影響を受けている事業者がおられることから、新型コロナウイルス関連では3回目となります商品券事業を実施するなど、国・県の支援施策等に注視し、紀宝町商工会や町内商工業者の皆様と連携を図り、事業者へのさらなる支援に取り組んでまいります。

特産品を中心とした、「ローカル・トゥ・ローカル新連携プロジェクト」のもと交流を深めております青森県藤崎町との取り組みにつきましては、引き続き、両町の道の駅や町祭などでの物産販売や、お互いの特産品を活用した商品開



いて検討を進めてまいります。

今後も引き続き、国土強靱化、災害に強い安全・安心な住み良いまちづくりを基本目標に、基盤整備を進めてまいります。

◆石川県中能登町

姉妹町提携を締結しております石川県中能登町とは、令和3年度におきましても、引き続き交流を推進してまいります。

「道整備交付金事業」を活用した、町道相野口永田線改良工事を始めとする27路線の改良工事、及び「社会資本整備総合交付金事業」を活用した、大里地区の永田橋を始めとする4橋の橋梁修繕工事、41橋の橋梁点検や町道井田成川線他1路線の改良工事に着手してまいります。

また、その他の事業といたしまして、長年の懸案事項であります成川深谷地区浸水対策につ

いて検討を進めてまいります。今後も引き続き、国土強靱化、災害に強い安全・安心な住み良いまちづくりを基本目標に、基盤整備を進めてまいります。幼児教育推進事業の一環として、本町の保育士が中能登町の保育所を視察研修し、両町の保育士が活発な意見交換を行うなかで、共に幼児教育・保育の向上を目指し、交流を深めてまいります。

スポーツ交流事業におきましては、平成26年度から継続的に、町体育協会、スポーツ少年団関係者、小中学生、保護者等が相互に訪問し合い交流を深めるなかで、競技力の向上を図りながら、友好と親睦を深めております。

また、教職員交流事業といたしましては、平成26年度から、小学校外国語活動や、算数・数学科における習熟度別少人数授業、「特別の教科道徳」などを視察研修し、事後研究会では両町の教職員が活発な意見交換を行うなかで、共に授業力の向上を目指し、交流を深めてまいりました。

発など、両町の産業振興を図ってまいりたいと考えております。

町内事業者の側面支援といたしましては、小規模事業の経営安定等のため、融資を受けた場合の利子の一部に対し補助を行う「紀宝町小規模事業者振興利子補給事業」、また、小売業や飲食店、サービス業などを対象としました地域に根ざした「起業」の支援を行うため、登録された空き店舗を活用する際、改修費用や家賃の一部を補助する「空き店舗再生事業」について、令和3年度も継続して取り組んでまいります。

雇用の関係につきましては、松阪市以南の6市10町で構成される南三重地域就労対策協議会や三重県南部地域活性化局と連携を図り、雇用の創出や地元就職の推進に努めてまいります。

◆井内工業団地

平成27年から井内工業団地内で操業いたしております「パナソニックライフソリューションズ電材三重株式会社」の紀宝工場、第2・第3棟の増築工事が昨年12月に完成し、現在では一部で稼働を開始しておりますが、4月からは本格稼働する予定と伺っており、さらなる雇用の創出が期待されるとともに、地元

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、スポーツ交流事業及び教職員交流事業は中止となりましたが、今後も交流事業を実施する計画であります。

◆教育施策

教育施策全般につきましては、平成27年度より「紀宝町総合教育会議」を設置するなかで、平成29年3月に「紀宝町教育大綱」を策定いたしました。

現在、この大綱に基づきまして、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策を推進しているところであります。

学力向上の取り組みにつきましては、平成26年度から「紀宝町学力向上推進協議会」を核として、子ども達が学ぶ喜びを実感するなかで、学びに向かう姿勢の向上と、学力向上に向けた取り組みを推進してまいりました。

平成31年度全国学力学習状況調査では、小学校国語、中学校数学・英語が全国平均を上回り、また、令和2年度は、県内集計ではありますが、小中学校ともに昨年度以上の結果が出ており、みえスタディチェックにおきましても、これまでにない好結果を残しております。

令和3年度全国学力学習状況を

商工業への波及効果や交流人口の増加等にも期待される場所があります。

今後も相互に協力し合い、紀宝町における商工業の振興を図ってまいりたいと考えております。

◆基盤整備施策

基盤整備施策につきましては、「一般国道42号新宮紀宝道路」では、熊野川河口大橋6基の橋梁下部工事が完成し、現在、上部工事を施工中であります。

紀宝町域におきましては、新宮紀宝道路J R高架橋P1下部工事をはじめ9か所で施工中であり、新宮紀宝道路J R高架橋上部工事等、6件の入札が公告済であります。

さらに、新宮紀宝道路鶴殿地区地盤改良他工事が工事発注見込みとして公表されております。

また、令和2年度第3次補正予算では、新宮紀宝道路に三重・和歌山両県併せて30億円、紀宝熊野道路に3億円の予算が配分されております。

本町といたしましても、近畿自動車道紀勢線の早期完成に向け、引き続き、国や県、関係各位と緊密に連携し、円滑な事業進捗を図ることができるよう全力で取り組んでまいります。

調査に向けても、学校、保護者、町教育委員会がそれぞれの役割を果たしながら、より豊かな学びのために継続的な取り組みを進めてまいります。

また、令和3年度から、改定された学習指導要領が小中学校において全面实施されるに当たり、「対話的、協働的で、深まりのある学び」の実現に向けた授業改善が求められております。

紀宝町内の児童・生徒数の多い小・中学校3校を拠点校として著名な先生を招いて授業改善に向けた研修会を開催し、各学校が全校体制で研修を継続する体制を確保し、教職員の指導力の向上を図ることにより、本町の子どもたちの豊かな学びとさらなる学力の向上を目指したいと考えております。

◆GIGAスクール構想

「GIGAスクール構想」につきましては、町内小中学校児童・生徒全員への「1人1台端末」と「高速大容量の通信ネットワーク」の一体的な整備を本年3月中の完了に向けて行っているところであります。「1人1台端末」や「高速大容量の通信ネットワーク」が整備された学校では、教育環境が子どもたち一人ひとり